

# 「ゼロカーボン北海道」に係る 道民意識調査結果

---

2024年2月  
経済部 ゼロカーボン推進局  
ゼロカーボン戦略課

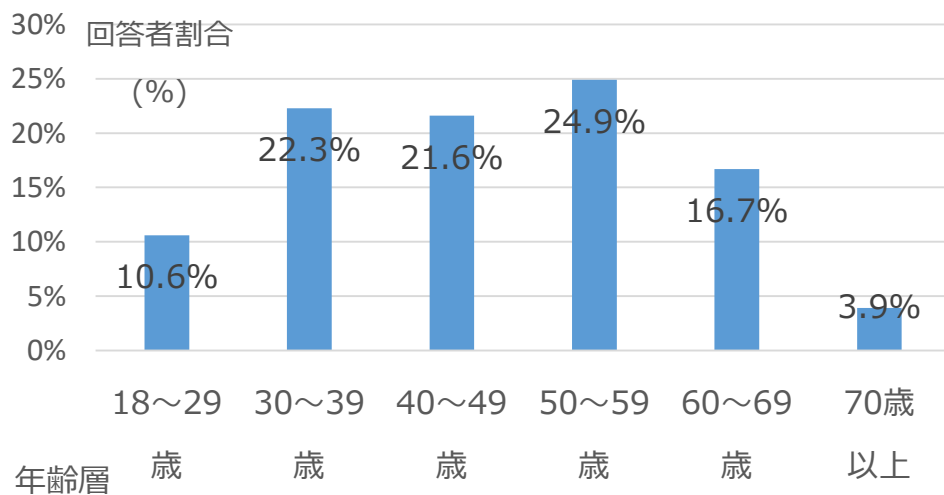
## 1 調査目的

ゼロカーボン北海道の取組を進めるため、道民の認知度や取組を把握し、各種施策に反映させることを目的に実施。

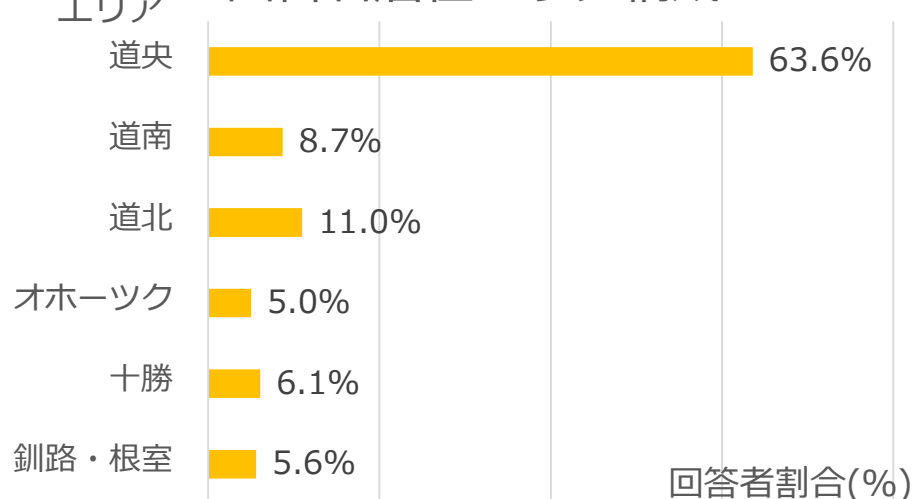
## 2 調査概要

- ✓ 調査方法：郵送配布、郵送回収およびWeb(スマホ)による回答
- ✓ 調査期間：令和5年(2023年)11月～12月
- ✓ 調査対象：道内に居住する満18歳以上の個人（層化二段無作為抽出法）
- ✓ 有効回収数：462（郵送回答247、Web回答215）
- ✓ 回答者情報：

回答者年齢構成 n=462



回答者居住エリア構成 n=462



※以降、パーセンテージを示すデータは小数点第2位を四捨五入し表記する

### 3 調査結果のポイント

- ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素という言葉の意味を「知っている」「ある程度知っている」の回答は57.8%となり、前回調査（52.6%）より向上。

「言葉の意味を知っている」が18.6%、「言葉の意味をある程度知っている」が39.2%。これらの回答割合は、60代、70歳以上では70%以上だが、18～29歳では約39%であり、若年層ほど浸透していない傾向。

（参考 令和4年11月の調査：「言葉の意味を知っている」18.5%、「言葉の意味をある程度知っている」との回答は34.1%）

- 北海道の削減目標値は56.9%の方に認知されておらず、前回調査（57.9%）とほぼ変わらない値。

北海道の削減目標値は、全体で「知っている」が9.7%、「聞いたことはある」が33.3%、「知らない」が56.9%。特に、18～29歳で65.3%、30～39歳では67.0%が「知らない」と回答しており、若年層への浸透は低い傾向。

（参考 令和4年11月の調査：「知っている」9.8%、「聞いたことはある」32.0%、「知らない」57.9%）

- **取組を増やすには「行動を具体的に知ること」と「ゼロカーボンの目的がもっと浸透すること」が必要との回答が示されており、前回調査と同様の傾向。**

ゼロカーボンにつながる行動を増やすためには、「行動を具体的に知ること」が54.3%、「目的がもっと浸透する」が45.0%。

(参考 令和4年11月の調査：「行動を具体的に知る」52.8%、「目的がもっと浸透する」46.0%)

- **今回は電気自動車を購入する際の不安や課題等についても調査を実施。価格の高さや充電設備の少なさなどに不安や課題を感じると半数以上の方が回答。**

「電気自動車を購入する際の、不安や課題は何ですか。(複数回答可)」の設問に対し「価格が高い」64.9%、「公共の充電設備が少ない」の64.1%、「航続距離が心配」53.9%「冬季に性能が低下する」53.7%と、4つの項目で半数以上の方が不安や課題を感じている傾向。

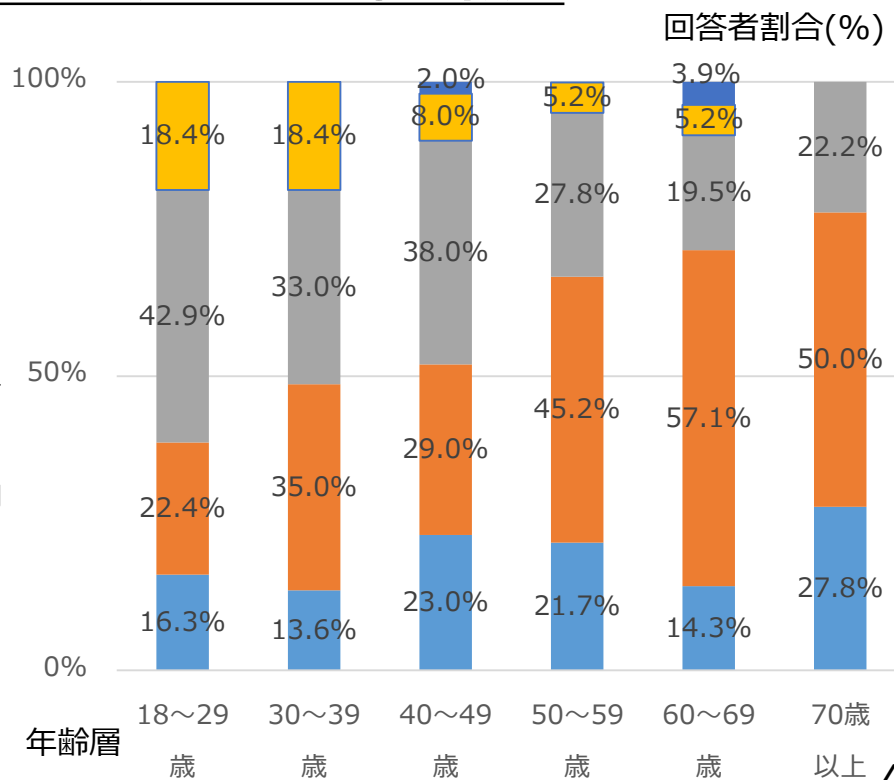
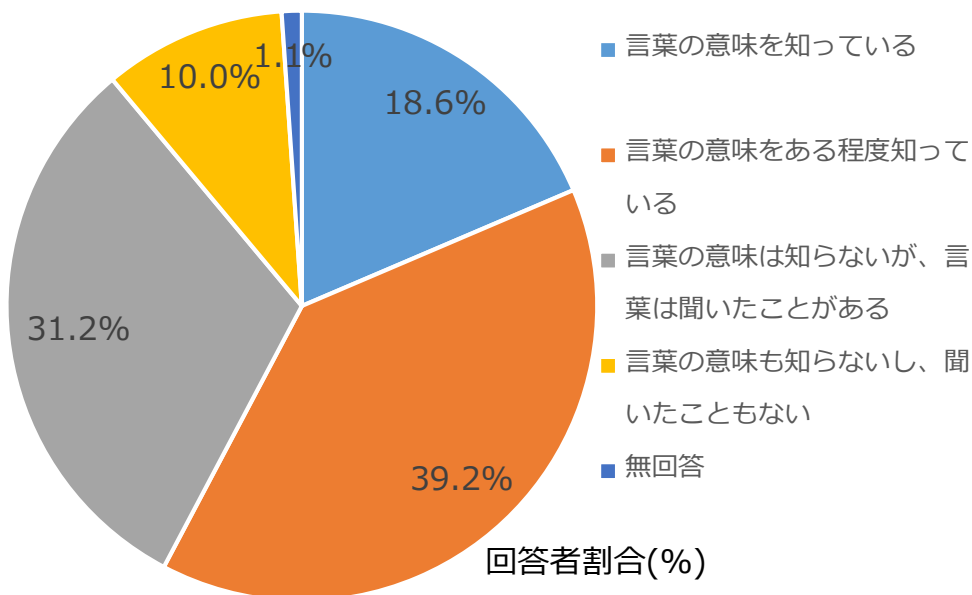
# 問1 ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素(以下、「ゼロカーボン」という)という言葉をご存じですか。また、どの程度ご存じですか。

## ・ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素という言葉の認知度

「言葉の意味を知っている」18.6%、「言葉の意味をある程度知っている」39.2%。

これらの回答割合を年齢層別に見ると60代、70歳以上では70%以上だが、18～29歳では約39%であり、**若年層ほど浸透していない傾向。**

(回答数：462名)

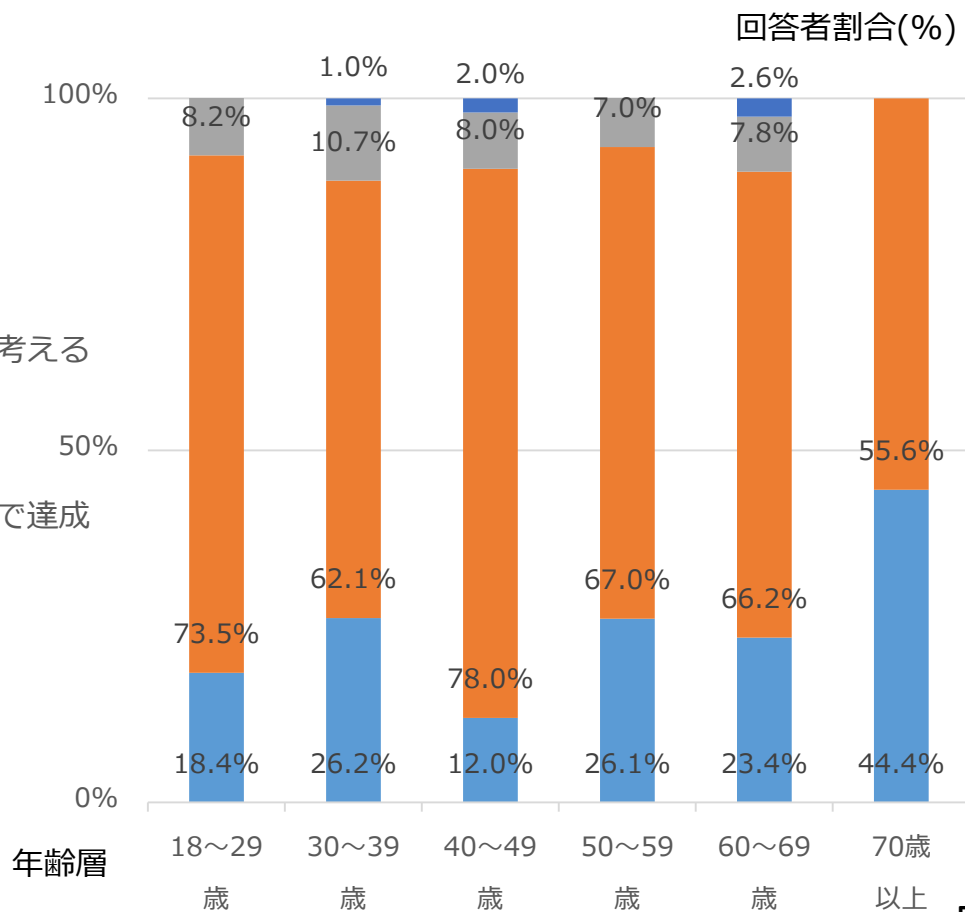
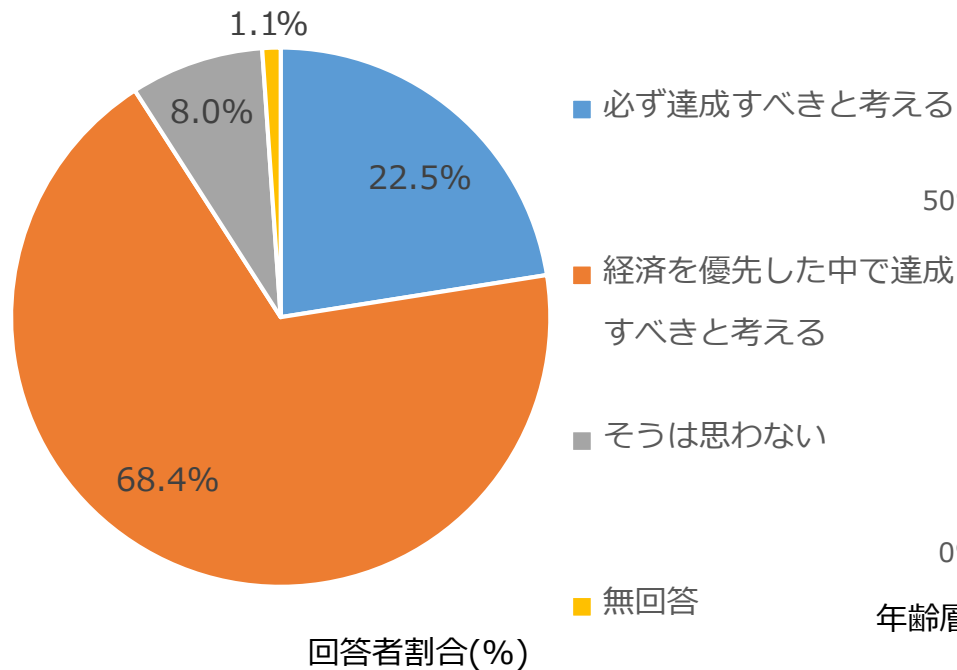


## 問2 ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えますか。

- ・ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えるか

**「経済を優先した中で達成すべきと考える」が68.4%を占めて多数派。**  
**「必ず達成すべきと考える」と合わせると、90.9%の方がゼロカーボンは達成すべきと認識。**

(回答数：462名)

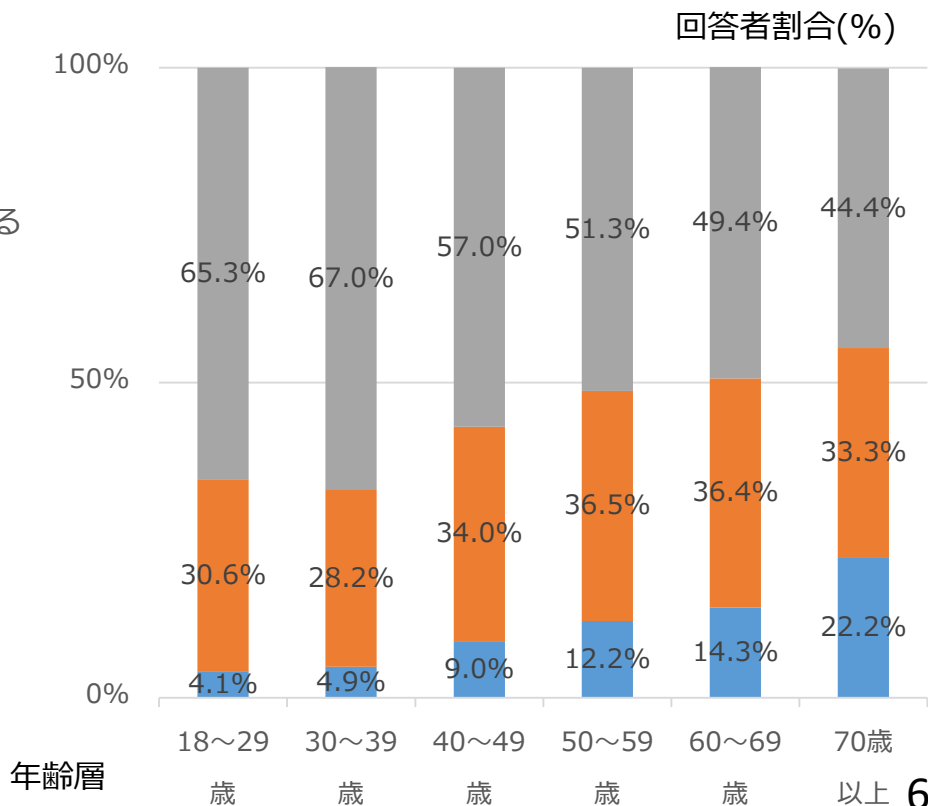
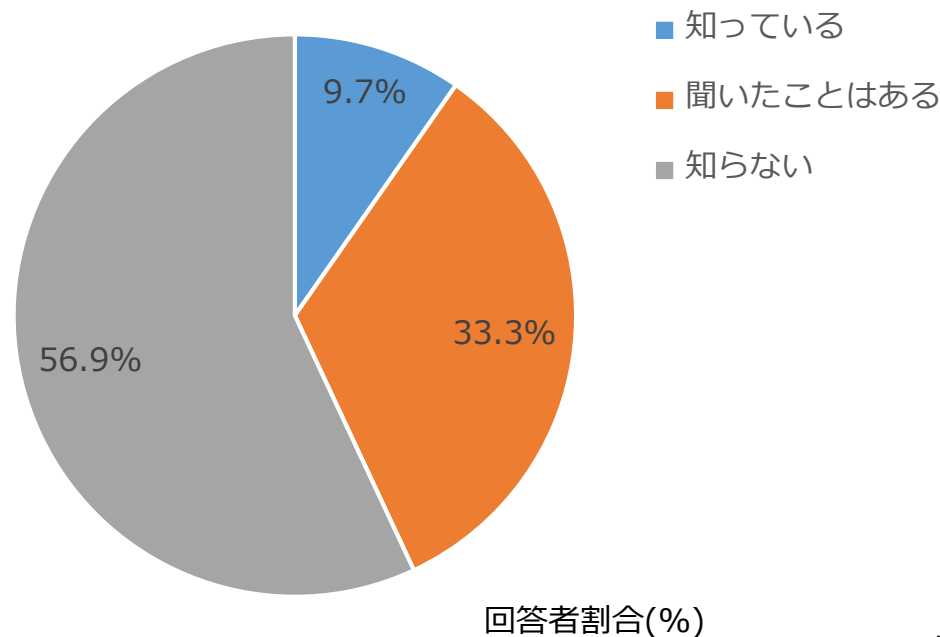


問3 北海道は2050年にゼロカーボンを目指し、2030年度に温室効果ガス48%削減(2013年度対比)を目標としたことを知っていますか。

・北海道の削減目標の認知度

**全体における認知度は、「知らない」と答えた方が56.9%で最も高かった。**60代以上では50%以上が「知っている」「聞いたことはある」と回答しているのに対し、18歳から29歳、30代では65%以上が「知らない」と回答しており、**若年層への浸透は低い傾向**が読み取れる。

全体(回答数：462名)

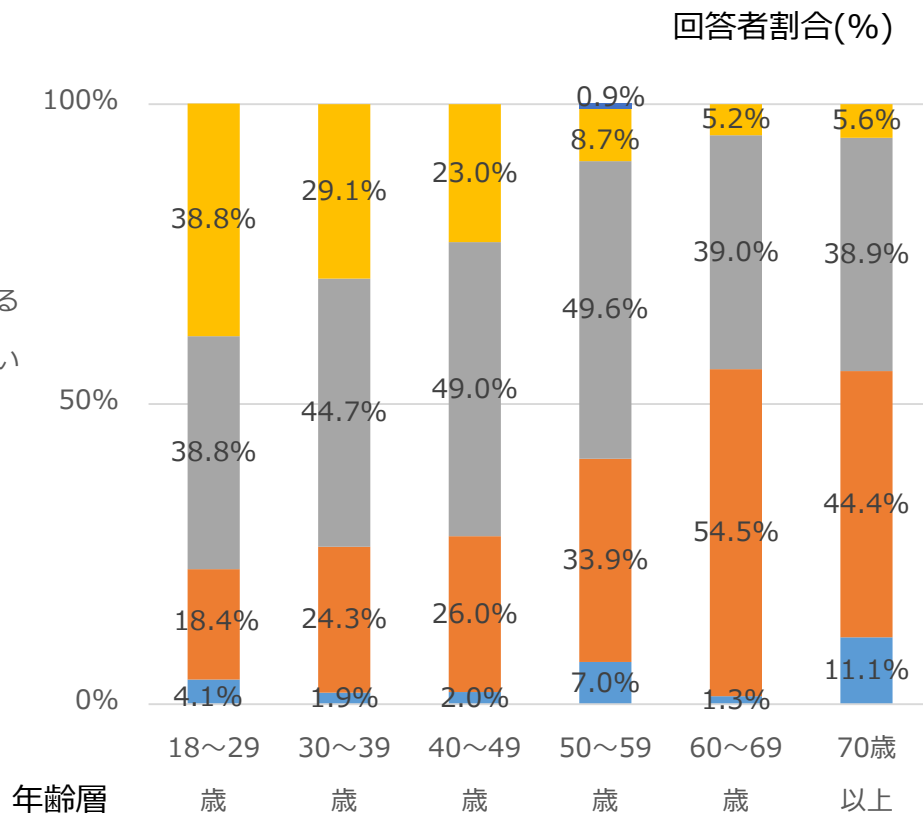
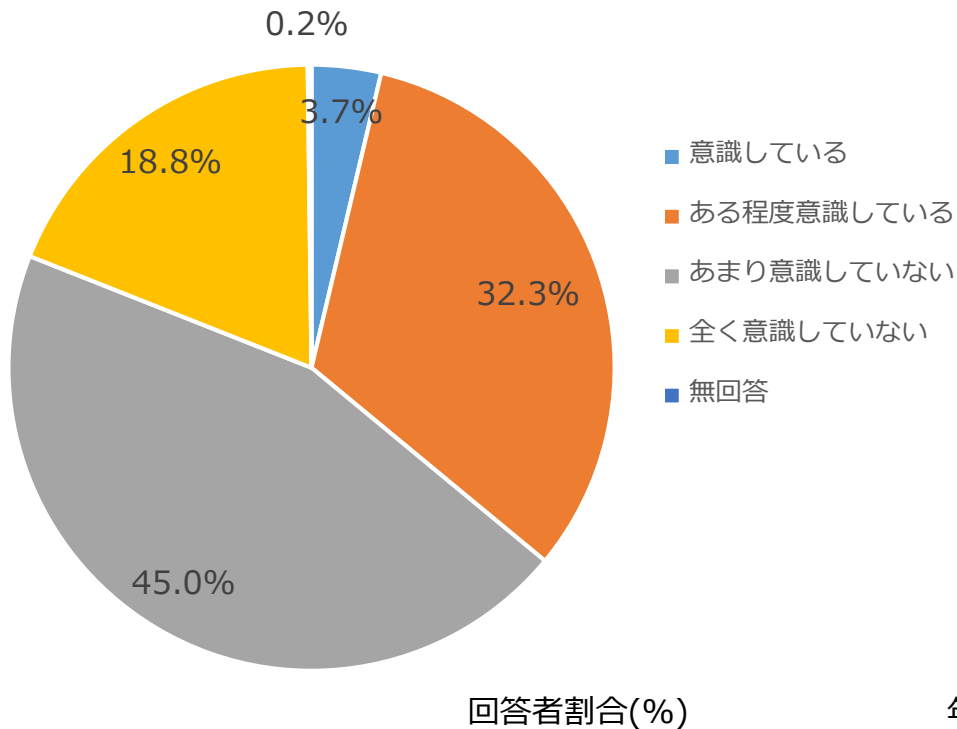


# 問4 あなたは暮らしの中でゼロカーボンを意識した行動をしていますか。

## ・ゼロカーボンを意識した行動

**全体では「意識している」と「ある程度意識している」は合わせて36.0%、「あまり意識していない」と「全く意識していない」は合わせて63.8%。**

回答数：462名

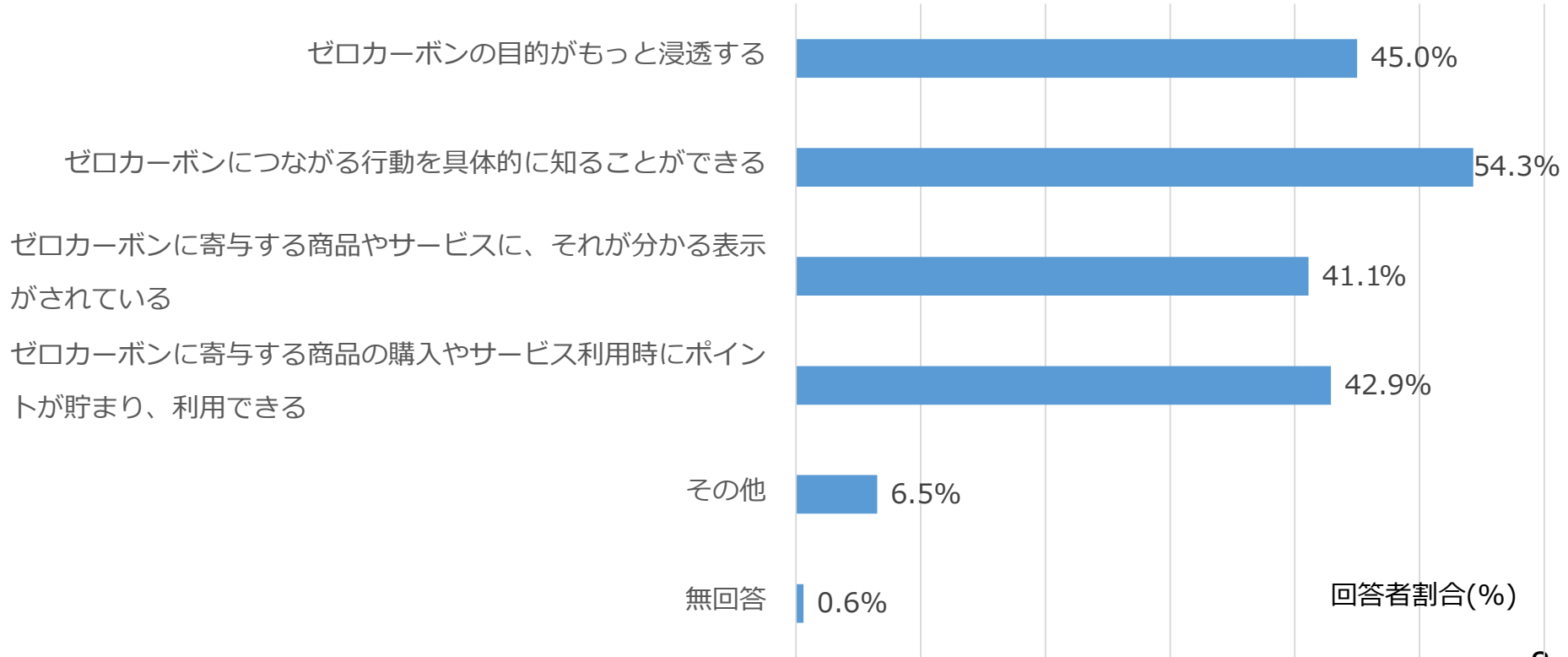




# 問5 どうしたらゼロカーボンに繋がる行動が増えると思いますか。(複数回答可)



- 上位3項目
- ・ゼロカーボンに繋がる行動を具体的に知ることができる(54.3%)
  - ・ゼロカーボンの目的がもっと浸透する(45.0%)
  - ・ゼロカーボンに寄与する商品の購入やサービス利用時にポイントが貯まり、利用できる(42.9%)

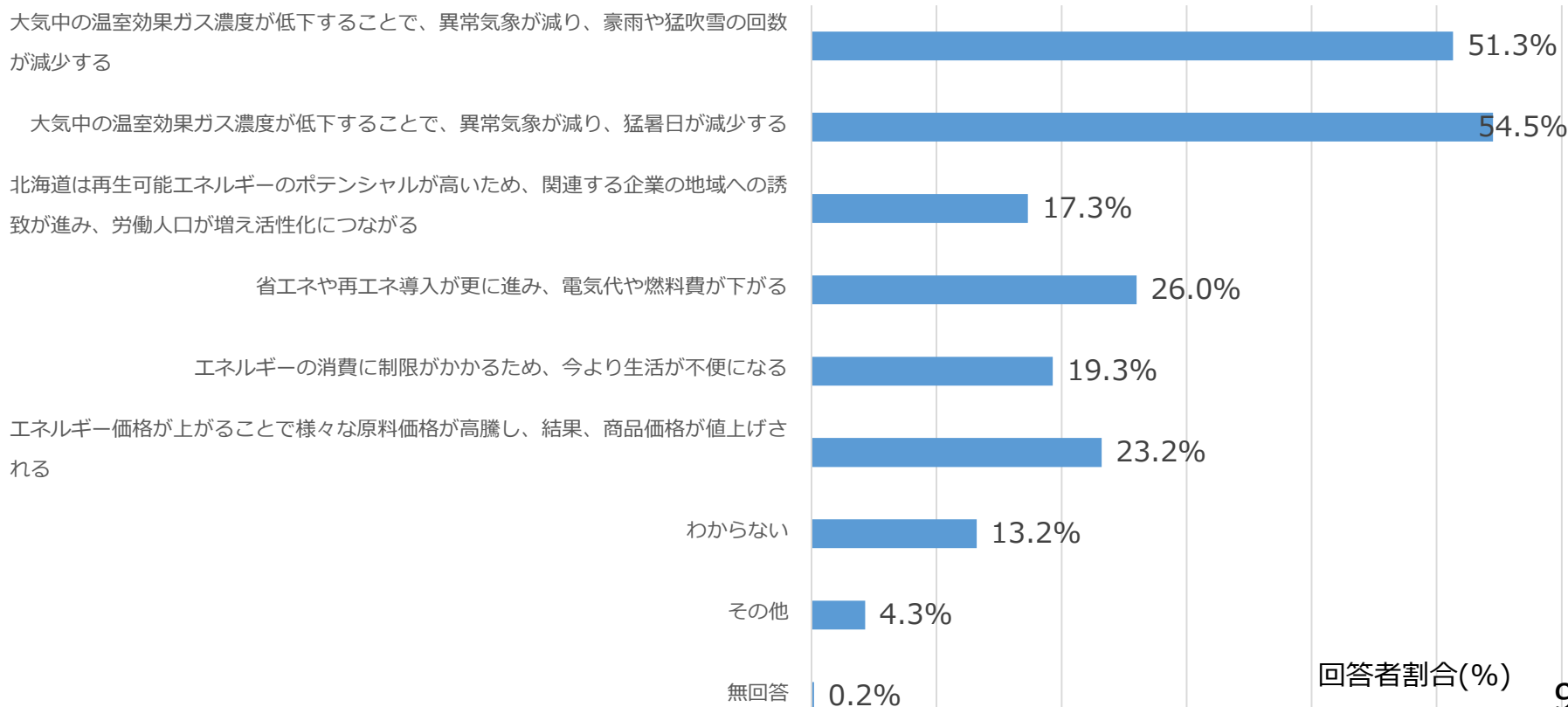


# 問6 地球温暖化対策として、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン」が達成されることでどのような効果(影響)があると思いますか。(複数回答可)

気候変動に対する効果を約半数の方が予想するが、それ以外の効果(影響)については理解が得られていなかったり、認知度が低い。

## 上位3項目

- ・ 豪雨や猛吹雪の回数が減少する(51.3%)
- ・ 猛暑日が減少する(54.5%)
- ・ 電気代や燃料費が下がる(26.0%)

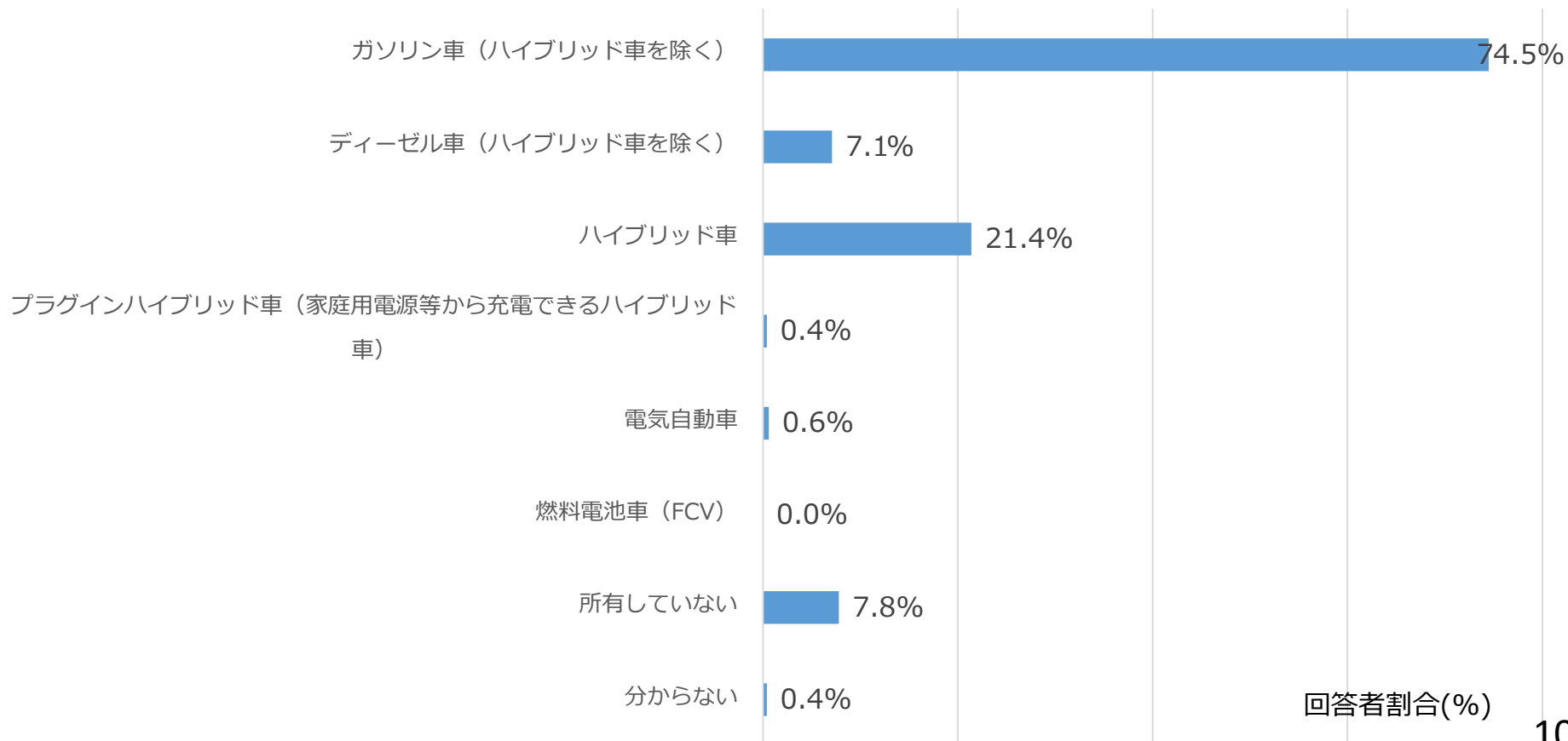


# 問7 自家用車について教えてください。 (複数回答可)

## 自家用車の状況

### 上位2項目

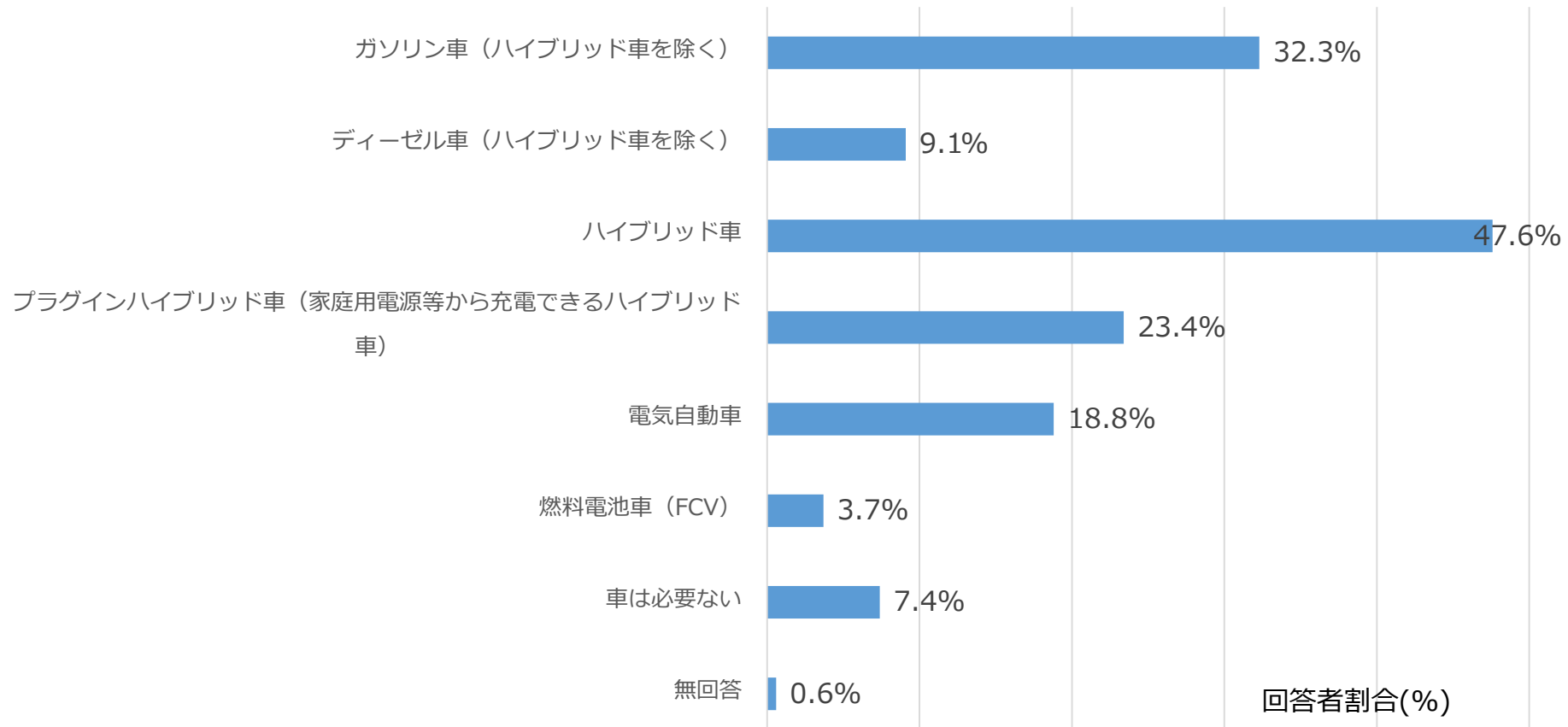
- ・ガソリン車（ハイブリッド車を除く）(74.5%)
- ・ハイブリッド車(21.4%)



# 問8 次に自動車を購入する際に、どの自動車を購入したいですか。当てはまるものをすべてお答えください。 (複数回答可)

## 上位3項目

- ・ハイブリット車 (47.6%)
- ・ガソリン車 (ハイブリット車を除く) (32.3%)
- ・プラグインハイブリット車 (23.4%)  
(家庭用電源から充電できるハイブリット車)

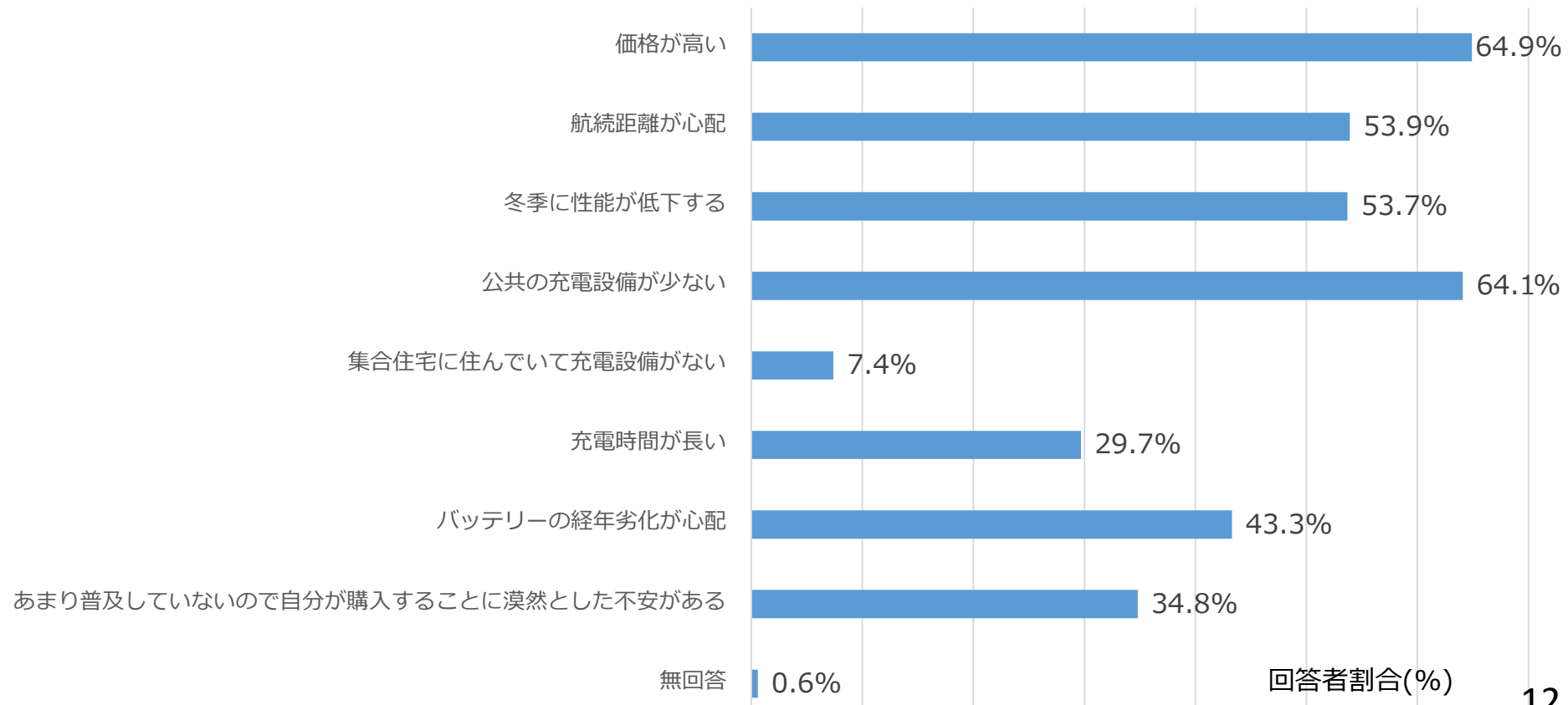


# 問9 電気自動車を購入する際の、不安や課題は何ですか。当てはまるものをすべてお答えください。(複数回答可)

価格が高い64.9%の他、充電設備の少なさや性能面を不安視される回答が多い。

### 上位2項目

- ・ 価格が高い(64.9%)
- ・ 公共の充電設備が少ない(64.1%)



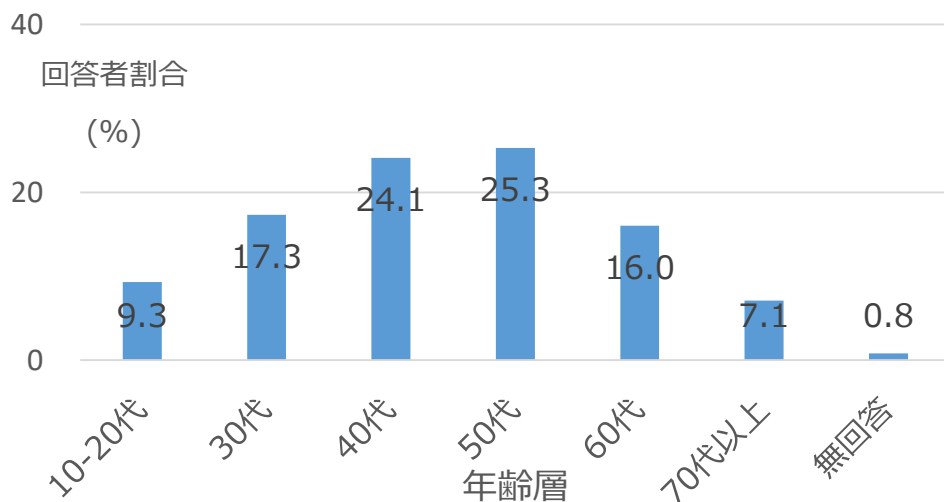
## 1 調査目的

ゼロカーボン北海道の取組を進めるため、道民の認知度や取組を把握し、各種施策に反映させることを目的に実施。

## 2 調査概要

- ✓ 調査方法：郵送配布、郵送回収およびWeb(スマホ)による回答
- ✓ 調査期間：令和4年(2022年)9月
- ✓ 調査対象：道内に居住する満18歳以上の個人（層化二段無作為抽出法）
- ✓ 有効回収数：860（郵送回答547、Web回答313）
- ✓ 回答者情報：

回答者年齢構成 n=860



回答者居住エリア構成 n=860



※以降、パーセンテージを示すデータは小数点第2位を四捨五入し表記する

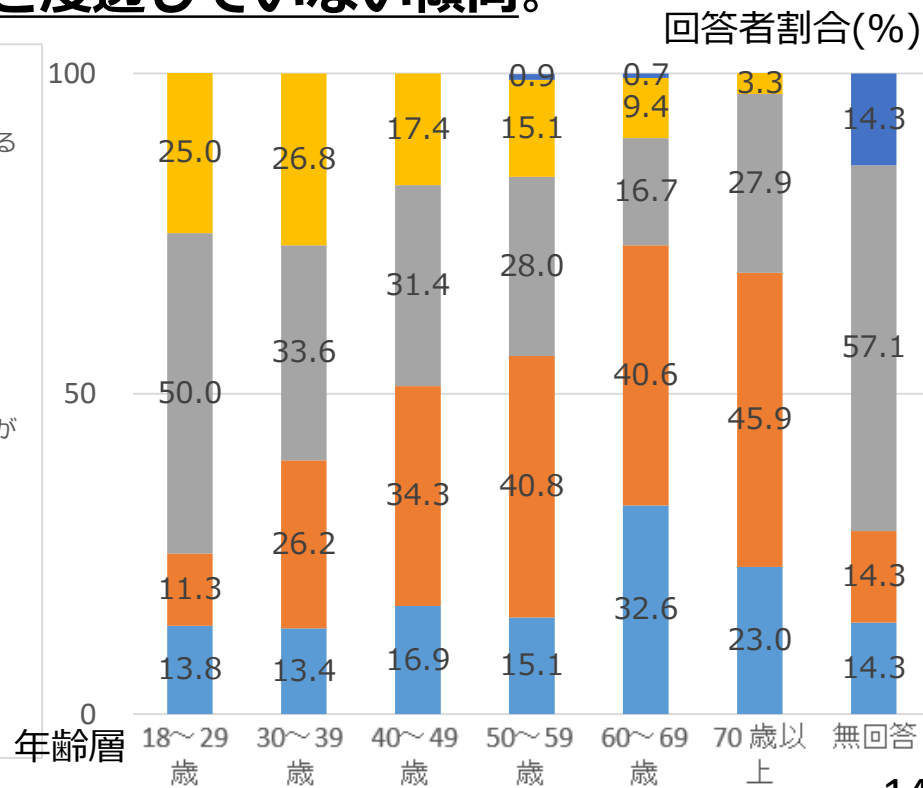
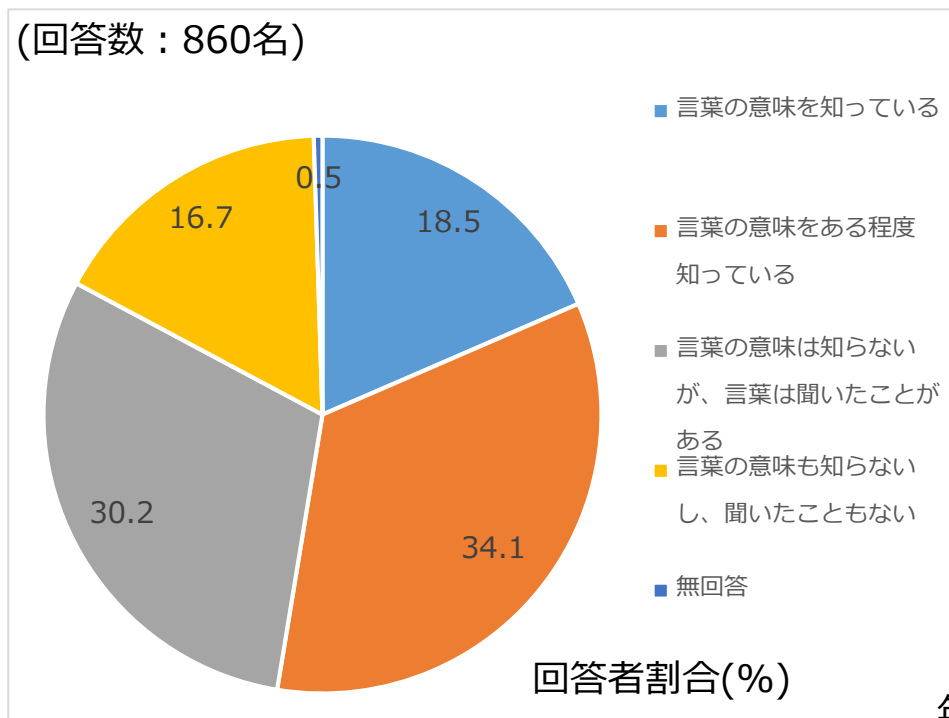
(参考：令和4年11月実施の調査)

問1 ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素(以下、「ゼロカーボン」と言う)という言葉をご存じですか。また、どの程度ご存じですか。

・ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素という言葉の認知度

「言葉の意味を知っている」18.5%、「言葉の意味をある程度知っている」34.1%。

これらの回答割合を年齢層別に見ると60代、70代以上では約70%だが、18～29歳では約25%であり、**若年層ほど浸透していない傾向。**



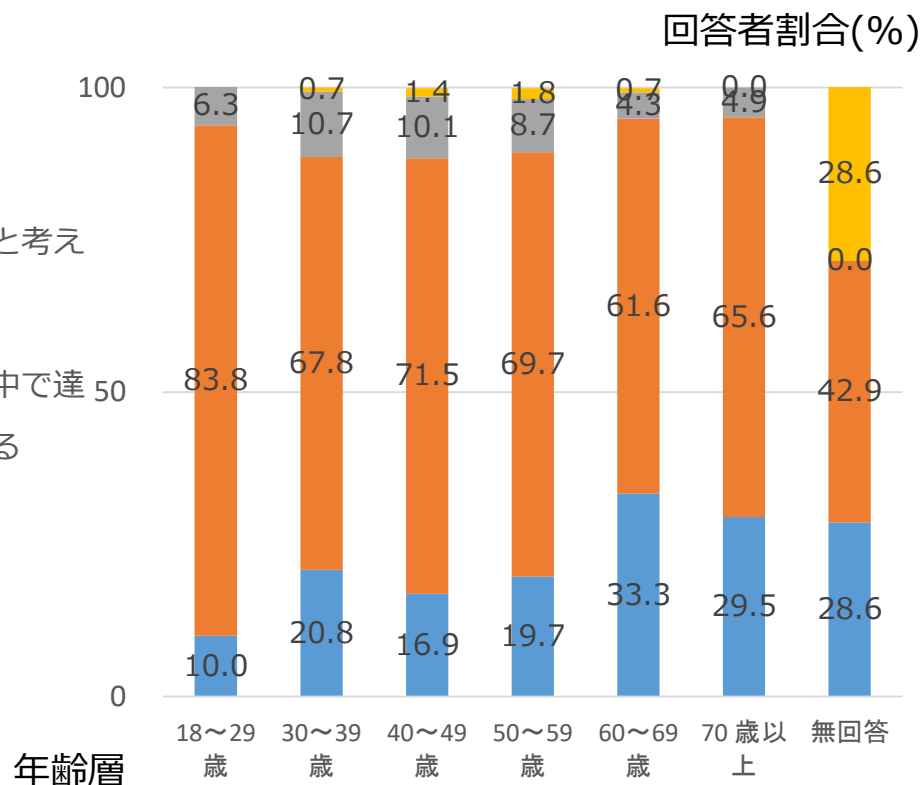
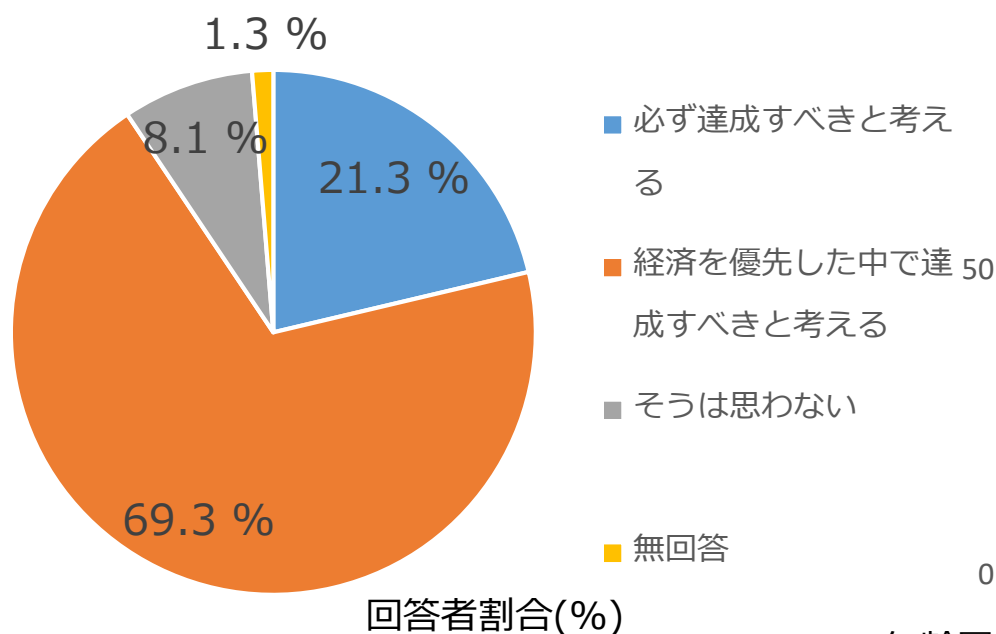
(参考：令和4年11月実施の調査)

## 問2 ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えますか。

- ・ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えるか

**「経済を優先した中で達成すべきと考える」が69.3%を占めて多数派。**  
**「必ず達成すべきと考える」と合わせると、90.6%の方がゼロカーボンは達成すべきと認識。**

(回答数：860名)





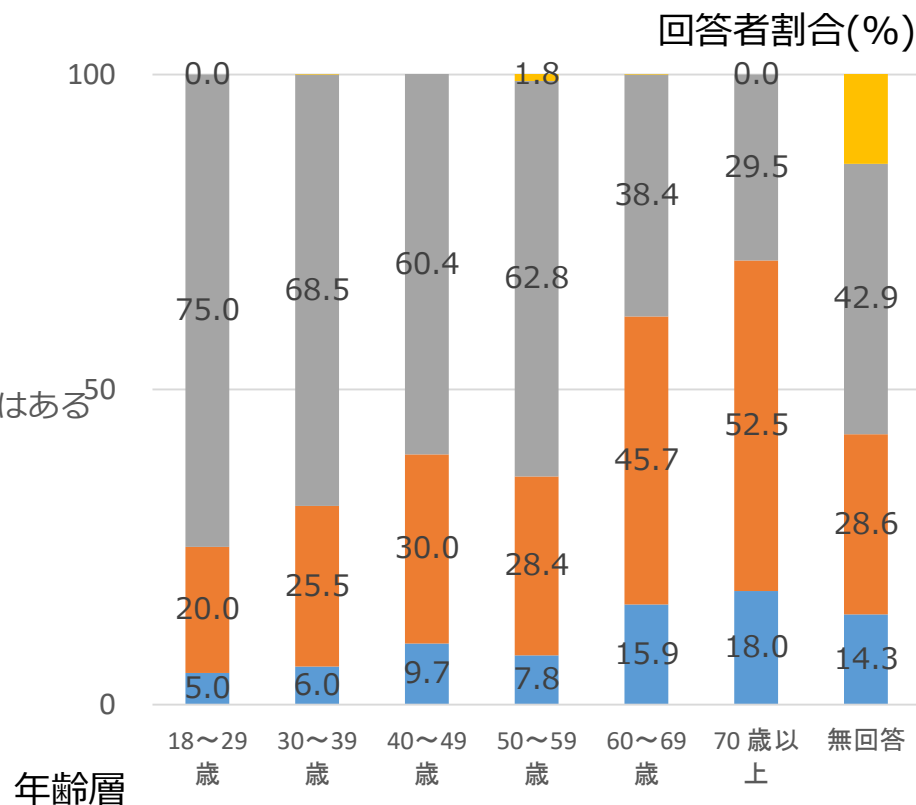
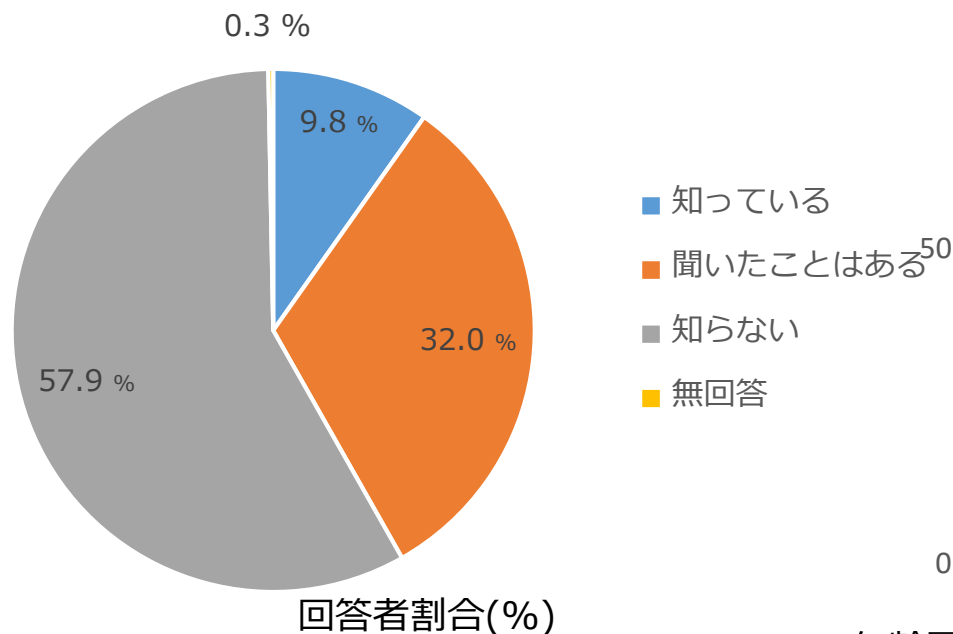
(参考：令和4年11月実施の調査)

問3 北海道は2050年にゼロカーボンを目指し、2030年度に温室効果ガス48%削減(2013年度対比)を目標としたことを知っていますか。

### 北海道の削減目標の認知度

**全体における認知度は、「知らない」と答えた方が57.9%で最も高かった。特に、18～29歳では75.0%が「知らない」と回答しており、若年層への浸透は低い傾向が読み取れる。**

全体(回答数：860名)



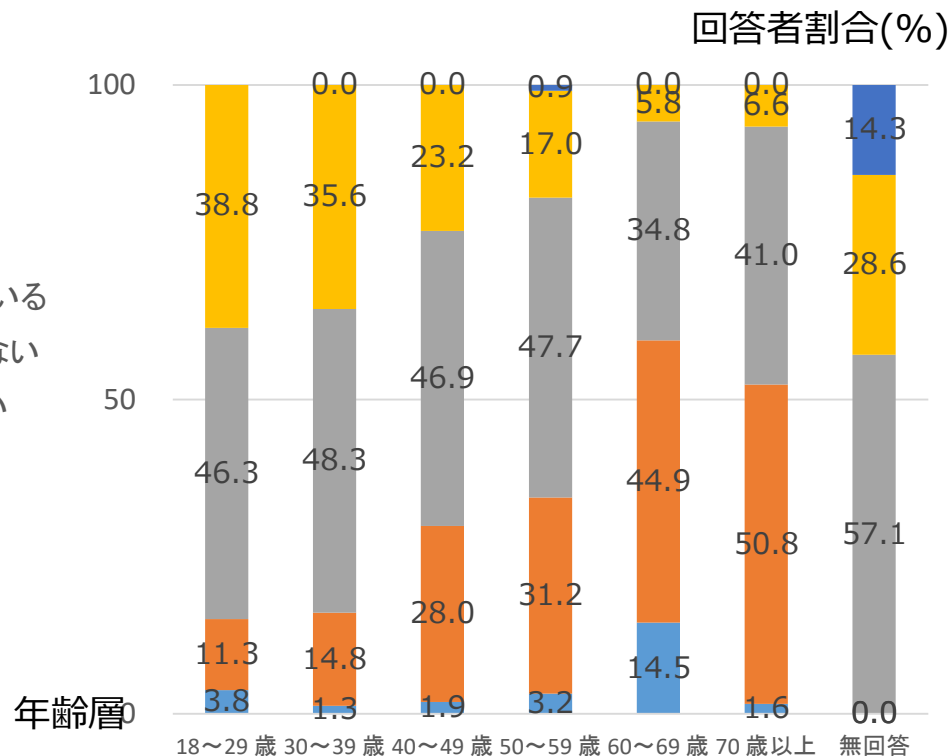
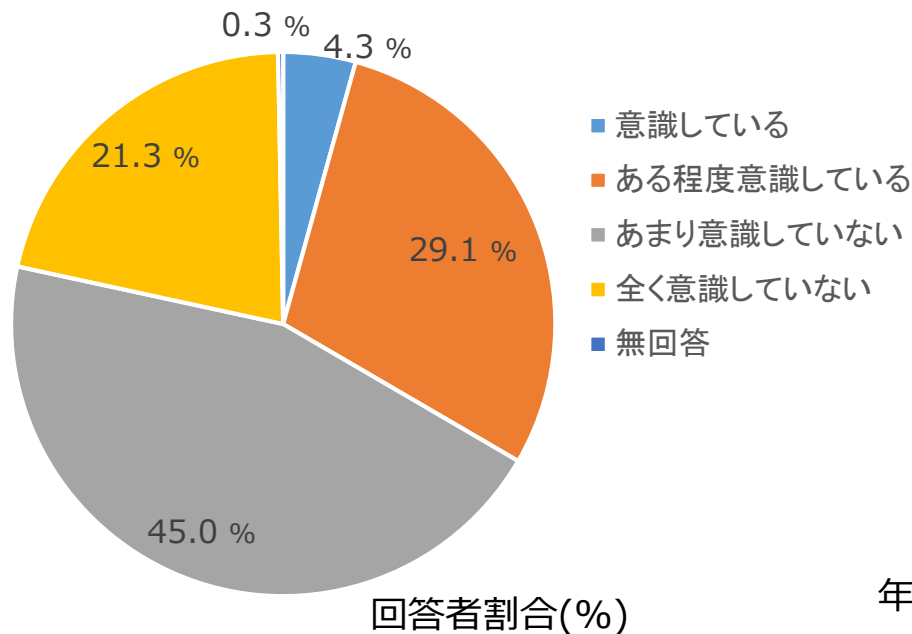
(参考：令和4年11月実施の調査)

問4 あなたは暮らしの中でゼロカーボンを意識した行動をしていますか。

・ゼロカーボンを意識した行動

**全体では「意識している」と「ある程度意識している」は合わせて33.4%、「あまり意識していない」と「全く意識していない」は合わせて66.3%。**

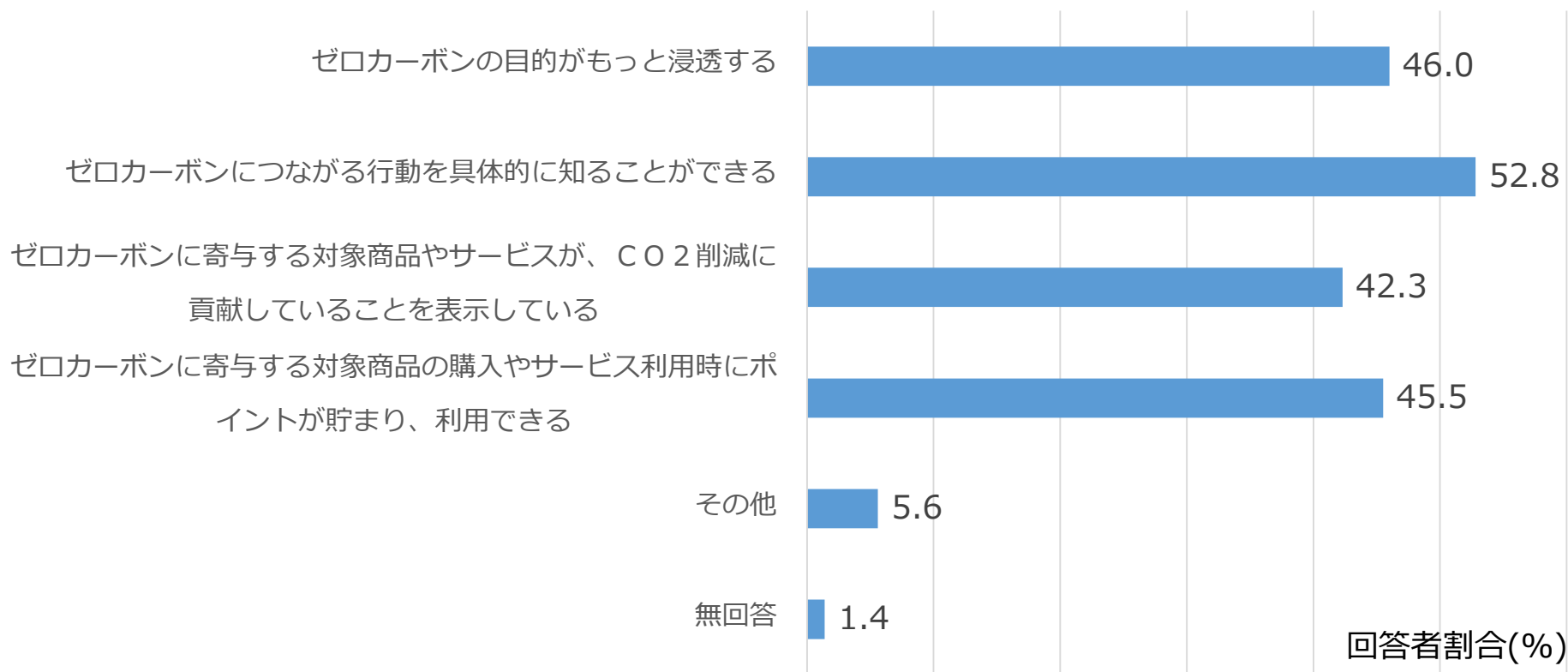
回答数：860名



(参考：令和4年11月実施の調査)

問5 どうしたらゼロカーボンに繋がる行動が増えると思いますか。  
(複数回答可)

- 上位3項目
- ・ゼロカーボンに繋がる行動を具体的に知ることができる(52.8%)
  - ・ゼロカーボンの目的がもっと浸透する(46.0%)
  - ・ゼロカーボンに寄与する対象商品の購入やサービス利用時にポイントが貯まり、利用できる(45.5%)



(参考：令和4年11月実施の調査)

問6 地球温暖化対策として、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン」が達成されることでどのような効果(影響)があると思いますか。(複数回答可)

気候変動に対する効果を約半数の方が予想するが、それ以外の効果(影響)については、理解が得られていなかったり、認知度が低い。

- 上位3項目
- ・ 豪雨や猛吹雪の回数が減少する(52.6%)
  - ・ 猛暑日が減少する(51.5%)
  - ・ 様々な商品価格が値上げされる(23.8%)

